

岡本土石工業(四日市工場)

岡本土石工業の四日市工場は、

市建材センター(三重県四日市市)は、総面積約3万㎡の広大な敷地内に生コン工場と砂利、砂の生産プラントを有し、北勢エリアを中心とする地域の建設業界に生コンと骨材を供給している。

このため四日市建材センターの生コン工場(四日市工場)は自社製品である骨材をそのまま原材料として受け入れている。同社は他に三重県の松阪市、南牟婁郡、和歌山

県の新宮市にそれぞれ生コン工場を持ち、三重県の北牟婁郡、南牟婁郡には砂利・砂のプラント、南牟婁郡には砕石プラントを持って



金沢工場長



四日市工場



水を重視したシステムを導入

いるが、同社の生コンプラントは常に自社で管理された骨材を使用できるといった特徴がある。

四日市工場がリバティの生コン向け「PN」システム「PN」を導入したのは昨年の

で、昨年1月に導入されているが、四日市工場についても品質管理の高度化を目指して操作盤を含めた「ツール

システムの採用に踏み切ったもの。現在、同工場ではPNによる品質管理のデータが集

測定器CONG-IIや単位水量測定機器NA COMを用いた「水」を重視した品質管理に置きつつは「今まで重要

システムはミキサ内部やコンベア、ホッパーなど品質管理のポイントになる場所にカメラを

るため、我々はその点を肝に銘じて人材のブラッシュアップに重点を置く必要がある」とも。

PNはミキサ内部やコンベア、ホッパーなど品質管理のポイントになる場所にカメラを

トレーサビリティ(追跡調査能力)のある品質管理を可能にするのみならず、現場で働く社員の能力向上にも高い効果を発揮するとい

う。「パソコンがあればどこでも作業者がミキサの内部やホッパーの状態を映像で確認することができると、例えば試験室の作業員がパソコンで製造工程を見ながら試料を採取することもできる。目視力が鍛えられ、製造への理解も深まり、結果、技術を共有することも可能になるかもしれない」(金沢所長、以下同)。

反映されているという。個々の工場に合ったプログラミングを作成してもらえ、細かい要望を聞いてくれる強みがある。工場として自信を持って活用できるシステムだが、生コン工場として顧客満足のために、まだやるべきことは多い。今後も努力を続けていきたい。またそのためのサポートをリバイにはお願いしたい。

四日市エリアは三重県下の中では民間建築物が比較的多く、高強度など特殊コンクリートの需要に、新たに導入したシステムが一層の効果を発揮することが期待されている。

撮影画像を有効活用 品質の高度化を目指す

6月。同社の新宮工場に続いての採用となった。新宮工場の場合、同工場が所属する鷺熊生コンクリート協同組合新宮支部の傘下全工場を対象としたPNによる品質管理体制の統一化の方針に沿っ

積されており、これを解析・評価することで、技術の確立を図っていく方針だ。

四日市建材センターの金沢一樹所長は生コン部と建材部の工場長も兼任しているが、PNの骨材の表面水率

て、その具体的な数値をグラフ等で可視化する等、品質管理をより高度にステップアップさせるための意気込みを感じる」と述べている。ただし、「例えば設備が良くてそれを活かすのも殺すのも人である」とも述べている。

設置して撮影した映像をデジタルデータで管理できる機能があり、撮影された映像は社内イントラを組んだパソコン上で何度でも繰り返し再生することができ、こうした機能は生コン一貫工場の

今回のシステム導入に際しては、事前に綿密に打ち合わせをして、工場側の要望がほ